

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800086		
法人名	社会福祉法人 京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム あんずの里(ももユニット・うめユニット)		
所在地	京都府綾部市高津町遠所1番621		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyosyoCd=2691800086-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノロ上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館 京都」1F
訪問調査日	平成26年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念:その人らしく生き生きと暮らし続ける力を地域と共に支えます。
福知山市と綾部市をつなぐ府道沿いに立ち、市内を眺めることが出来る桜並木が続く丘にある特養併設型グループホームです。春は桜や梅の花が咲き、夏や由良川の流れや地域で開催される花火、秋には木蓮の匂いや紅葉、冬は雪景色が楽しめます。お天気の良い日は戸外に出て季節を皆さんで感じ取っています。
地域の自治会の皆様のご協力があり、毎年、地藏盆や盆踊り、文化祭など地域行事に参加させていただいています。また、地域の老人クラブ会員の方に訪問していただき、交流会を実施させていただいたり、琴演奏会を開催して頂いたりご協力を頂いています。またご家族へ広報誌「あんずの里だより」を毎月発行させていただき、受け持ちスタッフからご様子をお伝えしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

綾部市高津町の丘にある特養併設型「あんずの里」(2ユニット)は、開設2年が経過。「個性を尊重し、活力と地域力を生活に活かす」ことを理念に掲げ、その取り組みを実践されています。本年は「その人らしく…」を実現するため、全室、自分の部屋づくりに挑戦。自筆による表札、室内の置物セット、自分で選ぶ洋服かけ、写真や飾り物など、本人・家族と担当スタッフが協力し、個性的で居心地の良い居室が工夫されています。また、玄関や共用の場には、季節感のある作品やカレンダー、家族からの写真、選挙の地域情報なども掲示し、生活感に溢れています。“利用者の目線です！”とする職員の意識と実践力が期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく生き生きと暮らし続ける力を地域と共に支えます」 玄関と事務所に理念を掲示。 毎月開催している、ホーム会議で唱和しケアの方向性を確認している。	2年前の開設時、個人の尊厳、自立と地域性を高めた理念「その人らしく・・・」を作成し、名札や広報紙に掲載し、意識づくりに努めている。毎月の全体会議では理念の具体的な実践の成果について探求している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が地域自治会に加入。買い物は地域のスーパーを利用。今年も地域の地蔵盆・盆踊りや文化祭に参加するなど地域に出かけている。 また地域の方々も琴演奏会や交流会など、ホームに訪問していただいている。	事業所が府道に面した高台にあり、交通上、便利ではないが併設型を活かし、地域交流に努めている。地域での買い物、盆踊り、文化祭への出展参加や地域の小学生や幼稚園児などの訪問、演奏、踊りのボランティアなども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブ役員の方々が訪問して下さり、利用者様との交流や施設の紹介などをさせていただく事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年は推進会議委員として民生委員や老人クラブ会長様にもご参加いただき、ホームでの活動を紹介させていただき、また委員の方々より地域情報を頂いている。	メンバーに民生委員、老人会など多数の参加を得て開催し、地域性を高めている。初年度よりスライドを利用した事業所報告、地域の話題など多彩な意見交換があり、家族に報告し意見も求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が毎回参加して下さり情報を頂いている。	推進会議の課題協力と情報交換などの状況を報告している。また、市主催の「物忘れ相談」に出向いて、行政との協力関係に努めている。	地域性を高め、より具体的な当地域の状況把握と関係機関との連携を図るため、地域の包括支援センターとの情報交換と協力関係を築いていくことが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特養職員と合同の「身体拘束廃止委員会」があり、身体拘束廃止に向けた啓蒙活動が行われている。学習会も開催されている。	「身体拘束の廃止」に向けて、特養と合同の委員会や学習会を実施。結果は伝達研修により全職員で共有している。玄関は常時開放し、現状は「だより」で伝え、安心安全への理解を得ており、契約書にも明記している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての文献を職員間で読み合わせを行い、日頃の介護に役立てている。また上記委員会が職員に対し啓蒙活動を行っている。		

京都府 グループホーム あんずの里（ももユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で学習会などを持った。 ホーム内で利用されている利用者様もありその都度疑問点があれば学習するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項説明書、契約書を用いて説明を行い、不安や疑問点を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、ご意見を頂くようにしているがあまり投書は無い状況。ご家族に対しアンケート調査を実施し結果を公表した。また職員間でも共有しホーム運営に活かしている。	面会時の聞き取りや開設1年後を機に、家族アンケートを実施。意見・要望は運営推進会議で報告し、職員会議でも検討している。「家族会」は現在、結成されていない。	さらに、本人・家族の満足度を高めサービスの質の向上を図るため、家族参加の機会も必要である。、開設2年を機に、敬老会などの行事参加を得て「家族会」を結成しては如何か。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議があり、運営や職員の意見を反映してもらっている。法人内で運営会議があり管理者が出席している。	毎月のホーム会議では、事前に意見や要望を書き込むように工夫し、会議の充実を図っている。更に意見を反映させるモニター方法も検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回執務考課を実施し個々の振り返りを行い成長を促している。また年2回施設統括者より個々の職員に対し面談があり意見を述べる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修会が1か月毎に企画され参加している。また施設外研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが中心となり「地域推進会議」を開催されている。参加することにより地域の様々な事業関係者と交流し、意見をいただく事ができる。		

京都府 グループホーム あんずの里（ももユニット）

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面接させていただきお話を聞きながら今の状況や思いを知るよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面接を通し、ご家族の思いや要望をお聞きできる様関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご家族・ご本人に面接を行い、ケアマネージャからの情報提供によりアセスメントし必要な対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事、できる事に役割を発揮していただき職員と共に日常生活を送っていただけるよう日々工夫している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対し毎月広報誌「あんずの里だより」を発行しホームでの生活の様子をお伝えしている。面会時などはホームでのご様子をお伝え開いたりご家族の思いをくみ取りながら有意義な時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部ではあるが入所後も継続して今まで利用されていた美容院を利用されている。友人の方や遠いご親戚の面会時など、今後も交流していただけるようお話したりしている。今年も年賀状を利用者様の届けたい方に出て出すことが出来た。	これまでの地域生活を継続し、馴染みの美容院や友人の来訪、墓参り、年賀状の作成などの支援をしているが、生活の領域が狭くなり、新たな関わりへの継続が難しい状況にある。	理念「その人らしく・・・」を実現し、地域社会との関係を継続するため、再度、フェイスシートの追求や本人・家族からの情報を蓄積し、個々の生活を楽しむ継続関係の再発見を年間計画の中に見出していきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考慮し、食事の席などを配慮し、日々の生活の中にも有効な関係性が保てるよう配慮している。トラブルのなりやすい利用者様には職員が注意を払い必要時仲介に入るなど考慮している。		

京都府 グループホーム あんずの里（ももユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様に対し、面会やご家族との連絡を取り合い、関係が途切れない様支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人の思いを聞いたり、ご家族に以前の暮らしの様子を聞き、担当者などと相談し、利用者様の思いにつながる支援となるよう心がけている。	今年度より「気持ち・気づき」シートの様式を変更。基本事項のほか、思い出場所、喜び、哀れみ、趣味、掃除、洗濯、調理など生活全般について、意向把握のポイントを記入し、ケアプランに反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新アセスメントシートを取り入れ、計画作成担当者と受け持ちスタッフでその人の暮らし方生活環境やを際飼う人再確認し把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間経過記録やケース記録に活動状況や心身の状況を記録し、職員間で情報を共有した上で援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時ご家族の要望や意見を聞き取り、ご本人の生活の状況やご希望を計画に反映できるように努力している。月1回の職員会議の中でケアプランのモニタリングを行い必要時修正している。プラン交付時ご家族のご意見を聞き取っている。	全員のホーム会議でモニタリングの確認を行い、アセスメントシートからの生活課題や面会時の聞き取りをベースに、受け持ち担当者と計画担当で介護計画を作成している。6か月ごとに計画を見直している。	アセスメントシートを充実し、介護計画の作成に向けた資料づくりは良好であるが、本人・家族・関係者などの意見を活かすため、チームで計画を立てるカンファレンス会議のあり方について、検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	思い付きノートを利用し、職員間で利用者様の対応や気づきを積極的に交換し計画に役立てている。また、報・連・相をこころがけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調不良時には状況に応じた対応ができる様、支援している。		

京都府 グループホーム あんずの里（ももユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へは自治会の方々の協力もあり文化祭や地蔵盆に参加し交流させていただいた。また隣接する企業が開催された「さくら祭り」に参加しコーラスを披露することが出来た。地域のボランティアの方々の訪問を受け交流を深めたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関と協力し24時間安心して生活していただけるよう支援している	協力医より月2回の往診があり、24時間、連絡が取れる体制にある。また、従来のかかりつけ医への受診希望者については、情報提供を行い医療面における安心に向けた支援をしている。また、歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置し、医療面でのケアを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書など文書による情報交換や病院相談員との情報交換に努めています。また必要に応じて面会や家族との連絡調整を行っている。病院関係者と調整し早期退院受け入れができる様努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重度化に向けた方針を説明させていただいています。終末時や急変時に再度意向の確認を行いチームで支援できる様検討し対応していきます。	昨年、事例1件あり、その実践を踏まえ「重度化した場合の対応指針」を作成し、明文化している。また、ターミナルに備えた往診対応等について、申し合わせ事項を確認している。今後、職員研修会を実施し研鑽に努める計画である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救命講習を全員受講している。法人内で行われる研修に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回法人内防災対策委員会が中心となり避難訓練を実施。職員は交互に参加。地域自治会と法人が災害時の対応を協議し地域の避難施設となっている。	法人として特養と共に様々な状況を想定し、避難訓練を消防署の応援も得て実施。緊急災害時対応では、機器の操作、連絡体制の確保、職員の意識づけを高めている。備蓄も用意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時カーテンを閉めたり入浴時の更衣時にタオルをかけるなど配慮している。言葉かけについても人生の先輩として失礼の無いよう敬語を使った対応をしている。	個人の尊厳を重視し、特に排せつ介助や入浴時の「言葉かけ」には、細心の注意と配慮を心がけ対応している。特養との合同研修に参加して周知に努め、個人情報、広報紙掲載等の本人・家族の同意も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思を大切に、飲み物やリクレーションを決めている。職員本位の流れにならない様努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間など利用者様主体に考え調整している。食事や入浴の時間も利用者様の希望によって柔軟な対応をしている。「自宅だと」と考えながら生活づくりを考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みに合った服装やアクセサリ化粧など実施していただけるよう声かけしている。毛染めやカットも家族様に協力していただき利用者様の希望に添えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食やおやつ作りを実践している。作る喜びや食の楽しさを共有しながら明るく楽しい時間を作るよう努力している。季節感のある料理を提供できるよう工夫している。	1日3食、特養からの配食であったが、基本的に朝食は事業所で調理し、利用者も配膳など食事作りを手伝っている。また、行事食や「おやつ」はホームで作り、楽しんでいる。茶碗、湯呑み、箸など各自のものを使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間経過記録にて水分量や食事量を把握している。水分量が少ない場合好みの飲料やゼリー果物などを提供し必要な水分量を確保する様支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。支援が必要な方は居室まで付き添い出来ない部分を介助している。夜間は義歯を外し、洗浄・保管を行っている。		

京都府 グループホーム あんずの里（ももユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間経過記録により排泄パターンを把握。必要な利用者様には声掛けし誘導を行っている。	個々の排せつパターンにより対応。おむつ使用は一人で、全員トイレ誘導を基本としている。1日の水分摂取量は1リットルをめざし、個々に記録管理し、便秘対策に「食物繊維パウダー」を活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間経過記録により排便状況を確認。便秘時下剤や食物繊維パウダーを使用している。下剤服用の方には服薬時水分を多くとっていただくよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望される入浴時間を優先し入浴していただいている。個人の好みにより湯加減を調節したり入浴剤を使用したりし、入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。	個浴で週3回を基本としているが、希望により柔軟に受け入れている。入浴拒否者には、夜間入浴も実施した事例や楽しむための様々な入浴法も検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や室温、ベッドの高さなど個々の利用者様に合うよう調整し安心して休んで頂けるよう支援している。眠れない方には足浴なども実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様のお薬説明書を薬剤保管庫と同じところにファイルし、いつでも確認できるようにしている。また服薬が変更になった場合、変更内容をカードに記載し症状の変化の確認に注意を払い情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味や特技を生かし、役割作りに取り組んでいる。生活歴も考慮し個々に役割をこなしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご本人の気分・体調にもよるが、買い物やドライブに出かけている。お正月には近くの神社に初詣に出かけた。ホームの周辺を散歩される方もある。ご家族の協力もいただき、ご本人の希望される所に外出された方もある。	行事計画として初詣、地域の文化祭見学があり、日常的には施設周辺の散歩や屋外に椅子を出して眼下の風景の眺望を楽しんでいる。また、順番に希望者と共にスーパーへの買い物などの外出を支援している。	毎日を生き生きと暮らし続けるために「外食」や利用者個々の希望を取り入れた外出の機会を増やし、幅広い楽しみを加えることを期待する。また、車両など、外出支援の環境も整えられたい。

京都府 グループホーム あんずの里（ももユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーなどでの買い物時能力のある方には支払いの役割を持っていただき職員が見守る場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用する能力のある利用者様は自由に通話されている。手紙の交流が長く続けられるよう必要な方には支援している。 お正月は各利用者様が自分の出したい方に年賀状出すこととし出来るだけ自分で書き上げられるよう支援した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内各所、掃除も毎日実施し、清潔な空間で過ごしていただけるよう配慮しています。 季節感を大切にして、季節の花がリビングや玄関を彩る様に努めています。また季節ごとに利用者様に作品を作っていただき掲示しています。	2ユニット各々が、利用者の特性を活かし、季節感のある作品展示や飾り物で生活の場づくりに努めている。落ち着いた色調の広い共用場所が確保され、自由性のあるテーブル、ソファの配置、照明、空調、音響の配慮もあり快適である。昨年12月から屋外の花壇・菜園作りにも挑戦している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性を考慮した食事時の配席をしています。またリビングのソファで気の合う方々が過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や花等をかざり利用者様が落ち着け居心地の良い空間づくりに努めている。また入口には自作の表札を掛けその方らしい居室となるよう工夫している。	居室は全室、個性ある利用者の部屋づくりに努め、入口に自筆の表札を掲げ、室内は備えつけのベッド以外に、机、置物、写真、飾り物など本人と家族の思いが心地よく配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく移動しやすい設計となっている。廊下・浴室・トイレなどは手すりを設けている。利用者様一人一人が安全に移動していただけるよう転倒事故予防のための環境整備に努めている。		